子どもとともに

乳幼児期における子育て支援

子育てはうれしいことや楽しいことがたくさん。けれど、慣れない育児に四苦八苦することもしばしば。予定どおりにいかず、ついイライラしてしまうことはありませんか。もちろん、幼い子にも喜怒哀楽の感情があり、自分の意思で行動します。このため、なかなか親の思い通りにならないことが往々にしてあります。

人間は成長とともに、得意・不得意が生まれ、個性が出てきます。時には、周囲との成長の差を感じ、不安になることも…。「どうしてこんなことができないの」という焦りがイライラの原因になることもあります。

子どもの成長や発達のスピードは人それぞれです。行動がゆっくりしている子もいれば、せっかちな子もいます。特徴を理解し、優しく寄り添うことが、育児だけでなく、親としての自覚の芽生えや自らの人間的な成長にもつながります。

今号では、子どもの特性や発達段階に応じた接し方の一例を紹介するほか、小学校入学前までの乳幼児期(0歳～6歳ごろ)における伊勢原市の子育て支援体制を紹介します。

得意も苦手も人それぞれです

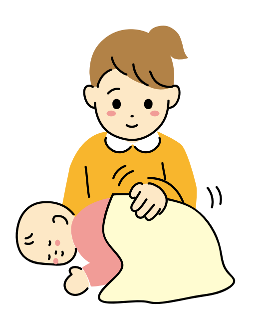
誰一人として、同じ子はいません。それぞれに得意なことや苦手なこと、感じ方や表現の方法は異なります。得意なことは褒めてあげて、苦手なことはできるようになるよう、サポートしてあげましょう。

とある子どもの特性

○○くん

◆大人と、体を使った遊びが好きで喜ぶ
◆積極的に話をしてくれるが、発音が不明瞭
◆視線があまり合わない
◆椅子に座って先生の指示を聞けるようになってきた

□□ちゃん



◆食事は椅子に座って食べないことが多い
◆気持ちの切り替えができず、体をひっくり返して泣きわめく
◆マイペースだが、大人と一緒にやると取り組めることもある
◆妹が寝ていると背中をトントンと優しく叩いて寝かせつけをしてくれる

△△くん

◆「パパ」「ママ」とは言わないが、動画の台詞を一人で話している
◆外出中、親の手を振りほどいてどこかへ行く
◆まとまった睡眠を取らないことが多い
◆おもちゃよりも瓶が好きで、よく指で叩いたり触ったりしている

☆☆ちゃん

◆外出する支度など、一つ一つ声をかけてあげると比較的容易にできる
◆予想外のことが起こると、なかなか納得しない
◆体操の時間は周りよりワンテンポ遅れる
◆自分から気が付いて必要な物を持ってきてくれることがある

わが子の特性としっかり向き合う

人間は周囲の人々の手助けや友だちと遊ぶ中で、成功や失敗を重ねながら学習します。しかし、中には方法が分からず困ったり、やりたいことを伝えることができなかったりして誤解されてしまう子もいます。

特に集団生活の中では、行動の意図が分かりにくい場合や成長する過程でよく見られる行動だと思われてしまうこともあります。

上手な伝え方のポイントを紹介します

コミュニケーションが苦手な子は、本人の努力では解決が難しい場面があります。きちんと理解できるように、周囲の人々が気付き、伝え方に配慮する必要があります。

近所に住む友だちと遊んでいたが、おもちゃを片付けて帰る準備をしてほしいとき

初めに何をしてほしいかを簡潔に伝え、含みのある言い方や察してもらおうとする曖昧な言い方ではなく、やってほしいことを直接的に伝えるよう心がけましょう。主語が本人になるようにすることもコツです。

× 他のお友だちはみんな片付けをしているよ
◎ 今遊んでいるおもちゃを片付けるよ

友だちのおもちゃを勝手に取って、返さなかったとき

どのような行動をしてほしいのかを具体的に伝えましょう。まずは結論から話し、何をするべきかを分かるようにすることが大切です。

× お友だちにいじわるをしちゃダメよ
◎ お友だちにそのおもちゃを返してあげなさい

「もう歯磨きはしたくない」と、寝る前にやらなければならないことを拒否したとき

まずは、本人の気持ちに一度寄り添い、肯定してあげることが大切です。その後で、なぜその行動をすべきかを説明しましょう。未就学児など、その行動によるメリットを伝えることが難しい場合は、シールやポイントなど、本人にとっての分かりやすいメリットを準備して、それを貯めたらご褒美がもらえるなどの工夫をしてもよいでしょう。

× ちゃんと歯磨きしなさい
◎ 歯磨きは大変だよね。でも虫歯にならないように一緒に磨こうか

駐車場を走ってしまったとき

「～しない」「～してはダメ」といった否定語での表現は、伝え方が直接的ではないため、小さい子には分かりにくい場合があります。また、良い行動をとりやすくさせるためには、実際に歩かせて、それを褒めることが大切です。失敗したまま終わらせず、成功させてから褒めて終わらせることで、学習効果が高くなります。

× 駐車場を走らないで
◎ 駐車場は歩こうね

成長に応じた相談窓口

発達や年齢ごとに相談する窓口があります。一人で悩まず、まずはお気軽にご相談ください。

(歳)
- 0：誕生／4カ月児健康診査／7カ月児健康相談／お誕生日前健康診査
- 1：1歳6カ月児健康診査
- 2：2歳児歯科健康診査
- 3：3歳児健康診査
- 4：幼稚園年少＊
- 5：幼稚園年中＊
- 6：幼稚園年長＊

この後も継続して支援を行います

＊幼稚園に入園する場合の一例です。入園時期はそれぞれ異なることがあります

子育て支援課／子ども家庭相談課／障がい福祉課

子育て支援課(子育て世代包括支援センター)
市役所1階　☎94-4637

「子育て世代包括支援センター」では、助産師や保健師、栄養士などが、妊産婦や乳幼児の健康、子育てに関する相談を受け付けています。また、「乳幼児健康診査」や「すくすく健康相談」などの母子保健事業を通じて、お子さんの成長・発達を見守り、関係機関と連携を取りながら切れ目のない支援を提供します。心配事があれば、ご相談ください。

子ども家庭相談課
市役所5階　☎94-4642

言葉や動作など、子どもの気になる癖、子育ての悩みなどの発達に関する相談に公認心理師や臨床心理士、言語聴覚士などが応じます。「乳幼児健康診査」や医療機関、認定こども園、保育所などで発達相談を紹介された場合、または気になることがあれば直接ご相談ください。

障がい福祉課
市役所1階　☎94-4720

障がいのあるお子さんの日常生活などに関する相談のほか、手帳の交付や手当の給付、障がい福祉サービスの申請など、各種福祉制度の受付や相談を行っています。各種福祉制度についてまとめた冊子「障がい福祉制度案内ガイドブック」を窓口で配布、および市ホームページ「健康・福祉」→「ガイドブック」に掲載しています◇右のQRコードからもご覧になれます

市ホームページ

気になることがあれば、お気軽にお尋ねください

子ども家庭相談課(☎94-4642)では、専門職を配置し、子どもの特性について気になることなど、乳幼児に関する発達相談を行っています。乳幼児健康診査などで紹介された場合や気になることがあれば、直接ご連絡ください。

利用者の声をお聞きしました

Aさん

私の子どもは生後間もなく体をうまく動かすことができない病気にかかりました。病院で市の発達相談を教えてもらったことが利用するきっかけです。子どものできない部分に目が行きがちだったのですが、発達相談では客観的なアドバイスをいただき、参考になりました。慣れない育児で不安な状況の中、一緒に対応を考えてくれてうれしかったです。今後も親子ともに気負わず、一つ一つできることを増やしていきたいです。

Bさん

娘が幼稚園に入園して、少し経ったときに「～です」が「～でちゅ」と赤ちゃん言葉になってしまうことが気になりました。近所のコミュニティセンターで身体測定をした際、保健師さんに相談したところ、市の発達相談の存在を知りました。全体的な相談をした後、言語聴覚士さんが対応してくれて、子どもの苦手な部分を具体的に教えてもらいました。専門の人に指摘してもらうことで、もやもやしていた部分がすっきりしました。

Cさん

姉妹で発達相談を利用しました。1人は知的な発達が緩やかなところがあり、小学校の勉強に付いて行けるか心配でした。専門の人に相談することで今まで気付かなかった子どもの得意・不得意を知ることができ、娘自身も達成感を得ることで自信がついたと思います。もう1人の娘は繊細で神経質、かんしゃくも激しかったです。しかし、子ども家庭相談課の職員さんが定期的に相談に乗ってくださり、親が不安を一人で抱えることなく冷静に対応できるきっかけになりました。

子どもの目線に立ち、必要なサポートをしていきます

令和元(2019)年10月、市の委託により、発達に不安や心配のある児童に対して支援を行うほか、ご家族からの相談や施設などへの援助や助言を行い、中核的な役割を担う施設として市児童発達支援センター「おおきな樹」が開所しました。施設の概要や発達支援について、従事者の2人にお話を伺いました。

おおきな樹(伊勢原1-24-15)☎79-5355
施設長 小木(おぎ) 淳一(じゅんいち)さん(写真右)
副施設長 清水(しみず) 実千(みち)さん(写真左)

発達に不安や心配がある子ども(2歳～6歳)を対象に、日常生活の基本的な動作や知識、技能の習得、集団生活への適応、その他必要な支援を行っています。平日の午前10時～午後2時までの、毎日通園を基本としており、マイクロバスで送迎も行っています。施設を利用する際は、市役所の子ども家庭相談課で相談を受けてから来られるケースがほとんどです。定員30人(3クラス編成)で、子どもたち一人一人の発達段階や興味・関心にしっかりと寄り添い、得意なことを伸ばすため、日々取り組んでいます。

また、地域の総合相談窓口として、子どもやそのご家族、地域の療育機関、保育園、幼稚園などへの援助や情報提供など、施設に通う子どもの支援以外の役割も担います。

親子の成長を一緒に支えていく

私たちは、個々の発達状況に応じて個別に支援を行う施設です。子どもが少しずつ成長する過程では、さまざまな葛藤が生まれると思います。小さい頃から、わが子との関わり方を理解し、無理をしない子育てをすることが大事です。子どもの特性や発達段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを目的に、ご家族に対して丁寧に相談を行い、安心して子育てができるよう、一緒に考えていきます。

1日の終わりには1クラスごとに先生が集まり情報共有します

地域で支え合う子育て環境を

子どもを育てる上で、心配事は尽きません。そのため、発達に心配がある子どもの支援に協力できるような地域の環境づくりが必要です。子育てが一段落した地域の先輩方が、「心配なことがあったら、市の窓口に相談できるみたいだよ」と声をかけ、温かい目で見守り、時には話を聞いてあげてください。

「おおきな樹」は、未来を担う子どもたちを一緒に育てていく地域づくりを目指して、これからも取り組んでいきたいと思います。